

覚えていますか？



昨年の10月20日の『橋下徹（大阪市長）vs 桜井誠（行動する保守運動）』の戦いを！世にいうヘイトスピーチ問題について対談する予定でしたが、双方口喧嘩となり10分にも満たずに対談は終了しました。しかしこの席での発言から、橋下徹市長の「国民蔑視」「無責任」の本性がむき出しになり、多くの批判を浴びることになったのです。この戦いで今年5月の大阪都構想の行方は決定したと言われています。大阪都構想否決に際して橋下市長の支持者たちは「老害が反対票を入れた」「老害さえいなければ」など日本を支えてきてくれた多くの方たちを侮辱する発言を行っています。行動する保守運動は一貫して大阪都構想に反対し、こうした侮辱発言について絶対に許さない立場をとってきました。そして大阪都構想について橋下市長は「大阪都構想の住民投票は1回限り」「（否決されれば）政治家を引退する」とはっきり明言しましたが、舌の根も乾かない僅か3か月後に「再チャレンジする」「国政新党を結成する」など二枚舌、三枚舌を披露する始末です。政治家としてではなく人間として、発言する言葉がこれだけ変わる人物を皆さんは信用できるでしょうか？行動する保守運動は大阪の有権者の皆さんとともに考えていきたいと思えます。

行動する保守運動

<http://www.koudouhosyu.info/index.html>